

2. ポスター発表「Prosodic Phrasing and That-Trace Effects at the Syntax-Prosody Interface」, with Yosuke Sato, GLOW in Asia IX, Mie University (2012年9月)

高田晴夫

1. 著書(共著)『Language Communication in a Multicultural Context』 North-Eastern Federal University, Buma Publishing Co. pp.13-27 (2013年1月)
2. 著書(共著)『フランス語をとらえる — フランス語学の諸問題IV —』東京外国語大学グループ《セメイオン》, 三修社 pp. 200-213 (2013年1月)

新たな「公共圏」モデルの構築

研究代表者 渡 邊 登

- 1) 研究プロジェクト名 新たな「公共圏」モデルの構築
- 2) 代表者名 渡邊 登
- 3) 分担者名(人文学部の教員)
佐藤 康行
原田 健一
中村 潔
松井 克浩
古賀 豊
杉原名穂子

中村 隆

北村 順生

4) 研究活動の概要

本研究プロジェクトは、高度情報化、メディアテクノロジーのグローバルな拡大のもとで、現実の地域社会におけるコミュニケーションが多層的・複合的な「公共圏」を形成するための諸条件の検討を課題としている。

昨年度は引き続き、研究メンバーが各々ないし複数で個々の専門領域から具体的なフィールドへのアプローチによる調査研究を行った。

例えば、慣習村役職の世代交代と組織の変化についての現地調査（聞き取り調査）およびバリ州統計局における資料収集（バリ州デンパサル市およびカラングスム県）や、韓国の地域社会（全羅北道扶安郡）における地域づくりの事例研究（放射性廃棄物処理場建設反対運動を契機とした地域文化創造の事例）、東北タイ農村の住民組織活動調査（ソーシャルキャピタルの観点からその可能性を検討）、また中越地震・中越沖地震、東日本大震災後の地域社会復興の諸条件を探る調査研究が挙げられる。

なお、以上の調査は著書、報告書として成果を発表している(7)研究成果の一覧を参照のこと。

また、上記に加えて昨年度に引き続き、本研究プロジェクトのメンバー（原田健一、北村順生、古賀豊、中村隆志）が主体となって、映像資料の発掘、調査のみならず、新たな地域に根ざした映像の製作、さらにはそれらの映像の公開、閲覧ができる仕組みづくりを目指した、地域社会と連携した実践的な研究プロジェクトとして、研究プロジェクト「地域文化に関するコミュニカルな映像アーカイブ情報の構築と情報発信」に取り組んでいる。

5) 研究会の開催

日 時：6月22日（金）17.00-18.30

場 所：学際交流室

発表者：YU WEIGANG（ユ イゴウ）先生

発表題目：震災復興におけるソーシャルワーカーについて
： 四川都江堰勤儉人家での体験を中心に

日 時： 9月11日（火）17：00－18：00

場 所： 学際交流室

報 告 者： 阿部晃士先生（岩手県立大学）

題 目： 被災地における震災9ヶ月後の生活と意識
－「復興に関する大船渡市民の意識調査」の分析－

6) 研究成果の概要と今後の課題

本プロジェクトでは既述したように、それぞれが個別のフィールド（日本、韓国、インドネシア、タイ等）を対象に、高齢化問題、環境問題、男女平等々の具体的課題の分析に基づいて公共圏モデルの解明を目指して研究を進めてきており、本研究は公共圏モデルの仮説的提示にとどまらない、社会提言を視野に据えた研究でもある。ここでの社会提言とは、日本学術振興会「人文社会科学振興プロジェクト研究事業」が提唱する「プロジェクト研究の成果を社会への提言として発信し、現代的諸問題の解決に貢献する」ことを指す。ただし、個別フィールドでの具体的課題分析にとどまっており、上記の目標は中期的な重要な課題となる。

7) 研究成果

（著書）

松井克浩（共著）『防災の社会学－防災コミュニティの社会設計に向けて〔第二版〕』東信堂、2012年。

（論文）

- ・ 中村隆志 「一九九六年から二〇〇〇年までの恋愛ドラマに見るケータイ利用とその分析」、『人文学の現在』所収、愛媛大学法文学部、新潟大学人文学部（共同編纂）、創風社出版。

- ・松井克浩「『場所』をめぐる感情とつながり — 災害による喪失と再生を手がかりとして」栗原隆編『感情と表象の生まれるところ』ナカニシヤ出版, 2013年.
- ・渡邊 登, 「福島第一原発事故をどのように読み解いていくのか」『汽水域』4号, 129-140頁, 2012年.

(口頭発表)

- ・松井克浩「新潟県内の原発避難者の構成・変化と支援状況」(社会学4学会合同研究・交流集会「『原発避難』を捉える／考える／支える」, 2012年6月, 明治学院大学)
- ・松井克浩「復興と女性の力 — 中越から東日本へ」(陸前高田市地域女性団体協議会「第20回 女性のつどい」講演, 2012年8月, 陸前高田市役所会議室)
- ・松井克浩「震災からの地域の復旧・復興」(国際地域研究学会大会2012年度大会企画セッション「地域の発展」2012年12月, 新潟県立大学)
- ・松井克浩「震災復興とコミュニティの役割」(華東理工大学社会公共管理学院講演, 2012年12月, 中国・上海市)
- ・松井克浩「中越地震の経験から考えること」(日本村落研究学会東北地区研究会, 2013年1月, 東北大学)
- ・松井克浩「災害への対応と地域コミュニティ」(愛媛大学人文学科講演会, 2013年3月, 愛媛大学)